

令和元年度 第1回倉吉市青少年問題対策協議会

倉吉市小中学生のいじめ・問題行動及び不登校に対する状況について説明し、早期発見・未然防止及び対応等について協議を行った。

○日 時 令和元年10月24日(木) 午後3時～午後5時

○場 所 市役所本庁舎 大会議室

○内 容

1 開 会

- (1) 開会あいさつ
- (2) 自己紹介

2 事務局説明

- (1) 倉吉市小中学校の生徒指導上の実態の概要
- (2) 倉吉市小中学校の不登校の状況及び対応について
- (3) 倉吉市小中学校のいじめ・問題行動の基本方針及び状況について

3 協 議

- (1) 倉吉市小中学校の不登校の状況について
- (2) 倉吉市小中学校のいじめ・問題行動の状況について

【主な意見】

- 担当する教員だけでなく、全体で共有する問題ということで、話し合いの場を数多く持って対応していただきたい。
- 不登校と一つの言葉でくくってしまうのが、要因もいろいろに関わり方も全く違ったりする。その見定めが難しいが、アセスメントを大事にしてアプローチしていかないといけない。
- 3日続けて休んだら家庭訪問するとか、欠席の連絡の受け答えのマニュアルをつくるとか、朝の出席の確認を丁寧にするとか、そういうところからの取組が大切である。
- 不登校は、生活や考え方が多様化している中で出てきている問題だと思う。一つ一つのケースについて効果的な方法が簡単に見つかるわけではないし、難しい問題ではあるが、今後も継続してこつこつとやるしかない。学校でできること、家庭でできること、地域で関われることなど、それぞれの役割で関わっていくことが大切である。
- 中学生の7割はインターネットにつながるツールを持っていると感じている。親が所有しているものを使っているケースもあるし、親が使っていたお古を使ってオンラインしている子もけっこう多い。
- 携帯・スマホについては、学校で子どもには指導をするのだが、結局、道具を渡すのは保護者である。そのあたりの危険性をしっかり伝えていかないといけない。保護者と子どもと一緒に学ぶ機会を設けることも一つの方法である。
- 今は携帯を持ってはいけないとは言えない。持っていることが前提で、ではどう正しく使わせるかということをしていかないといけない。年齢に応じて情報モラルを学んでいくことが必要である。
- いじめについては、いろいろな目で見えていかないといけない。日常的に気づきを情報共有することが大切である。
- その場では解決して仲直りしたようには見えても、一方でインターネットの中で頭にくることを書き続けている子もいる。本当に解決したかどうか、状況をきちんと見ることが大切である。

4 閉 会